



# 高知県の高等学校改革について

～ 学力定着把握検査等によるPDCAの推進 ～

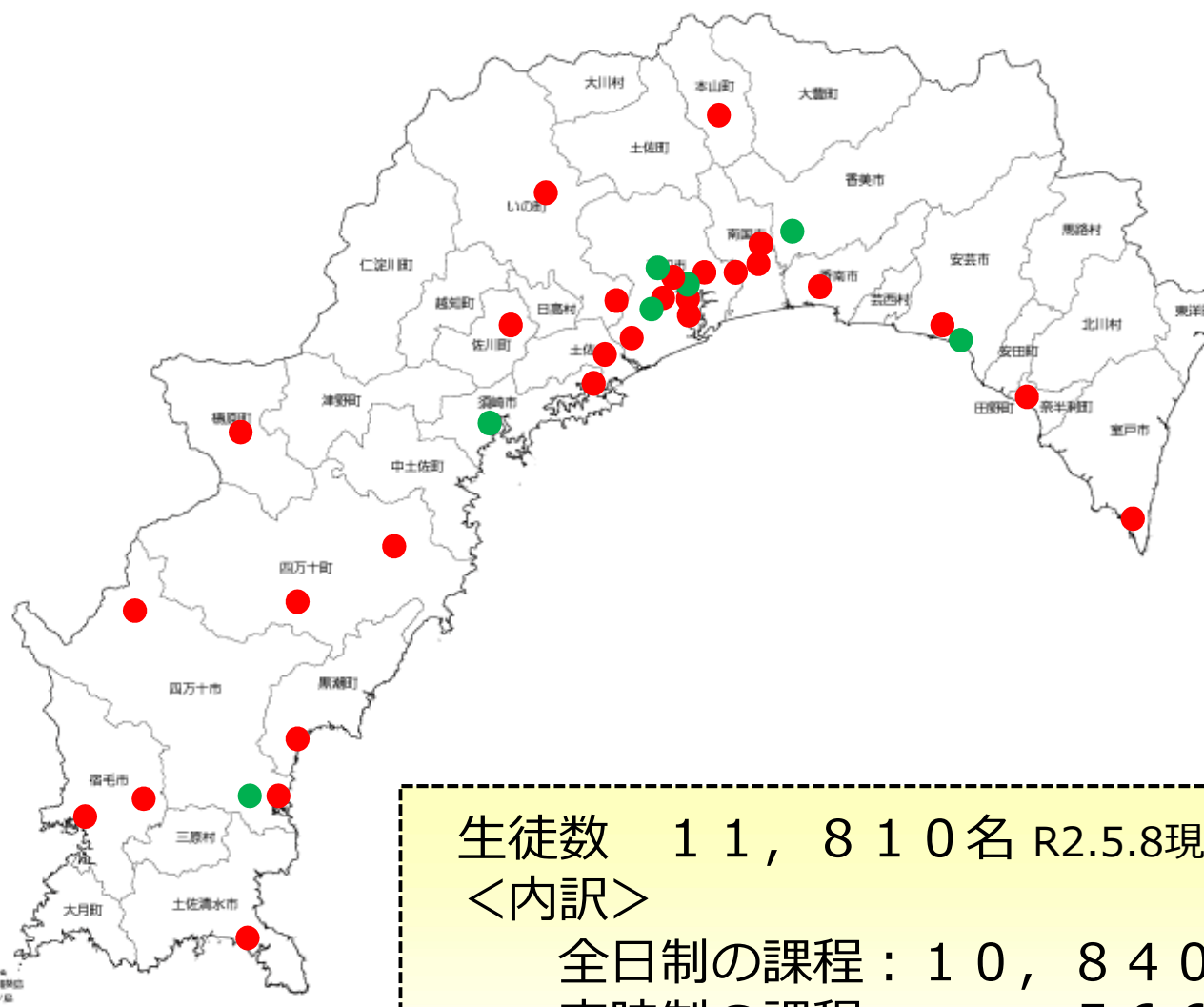


令和2年11月30日  
高知県教育委員会事務局高等学校課  
企画監 長岡 辰治



# 1 高知県の高等学校の現状

## 令和2年度 高知県立高等学校配置図（市立学校を除く）



- 県立高等学校
- 県立高等学校のうち  
進学拠点校

学校（本校・分校）数 36校  
（高知国際高校を含む）

<内訳>

普通科	22校
産業系	8校
総合学科	3校
産業・普通科	2校
産業・総合学科	1校

生徒数 11,810名 R2.5.8現在 (H21: 15,474名)

<内訳>

全日制の課程	: 10,840名	(13,534名)
定時制の課程	: 566名	(1,169名)
通信制の課程	: 404名	(771名)

(R2: 高等学校課調べ、H21: 学校基本調査より)

10年あまり前の本県の子どもたちの現状

待ったなしの危機的な状況

全国最低水準にあった児童生徒の学力・体力、生徒指導上の諸問題の状況

**知**

**H19年度  
全国学力・学習状況調査**

- 小学校は37位
- 中学校は46位、全国平均を大きく下回る状況

**徳**

**H19年度  
生徒指導上の諸問題の状況**

- 不登校出現率(小中)ワースト2位
- 暴力行為発生件数 ワースト2位
- 中途退学率 ワースト2位

**体**

**H20年度  
全国体力・運動能力・運動習慣等調査**

- 小学校 男子47位 女子47位
- 中学校 男子45位 女子46位

これまでの取組を徹底検証  
危機的状況の改善に向けた教育改革を推進

### 教育大綱

- H28.3月「**教育等の振興に関する施策の大綱**」策定  
【4年間の総合的な施策】
- 県教育委員会では、大綱の内容を踏まえ、より具体的な事業の実施計画等を盛り込んだ「**第2期高知県教育振興基本計画**」（平成28年度～平成31年度）を同時に策定

#### 基本理念 ~目指すべき人間像~

学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち

- 知・徳・体の調和がとれた、自らの人生を切り拓き主体的に生きる力

郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材

- 先の見えない変化の激しい時代の中で、課題に挑戦し未来を切り拓く人材の育成

理念にとどまらない**実行性ある具体策が必要**

**取組の成果を測る基本目標を設定**

### 第2期高知県教育振興基本計画

#### 基本目標

知

- 小学校の学力は全国上位を維持し、更に上位を目指す [H27：国語 9位、算数 15位]
- 中学校の学力は全国平均以上に引き上げる [H27：国語 46位、数学 46位]
- 高校3年生の4月の学力定着把握検査におけるD3層の生徒の割合※を15%以下に引き下げる [H27： 30.4%]  
※D3層：学習内容が十分定着しておらず、進学や就職の際に困難が生じることが予測される生徒の割合

徳

- 高等学校卒業者のうち進路未定で卒業する生徒の割合を3%以下にする [H27： 6.3%]
- 生徒指導上の諸問題の状況を全国平均まで改善する [H27：暴力行為 ワースト2位、不登校(小中) ワースト1位]
- 児童生徒の道徳性意識調査結果で、全国平均を3ポイント以上上回る [H27全国平均(6項目計)との差：小学校+0.28P、中学校+0.48P]

体

- 小学校の体力・運動能力は全国上位に、中学校の体力・運動能力は全国平均以上に引き上げる [H27体力合計点：小学校 男子21位、女子21位 中学校 男子30位、女子45位]

目標達成状況の定期的な検証が必要 ▶ PDCAサイクルに基づく進捗管理を徹底



### 第3期高知県教育振興基本計画

基本理念の実現に向けた取組の基本目標として

#### 知 (1) 知の分野の目標

子どもたちが社会に出て自らの夢や志を実現していくための基礎となる、基礎的・基本的な知識・技能やこれらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力、生涯にわたって学び続ける意欲を育む

#### 徳 (2) 徳の分野の目標

社会の中で多様な人々と互いに尊重し合い、協働し、社会に参画しながら人としてよりよく生きていくための基礎となる、他者への思いやりや規範意識、公共の精神などの豊かな人間性・道徳性・社会性を育む

#### 体 (3) 体の分野の目標

生涯にわたってたくましく生き抜いていくための基礎となる、体力や健康的な生活習慣を身につけさせる

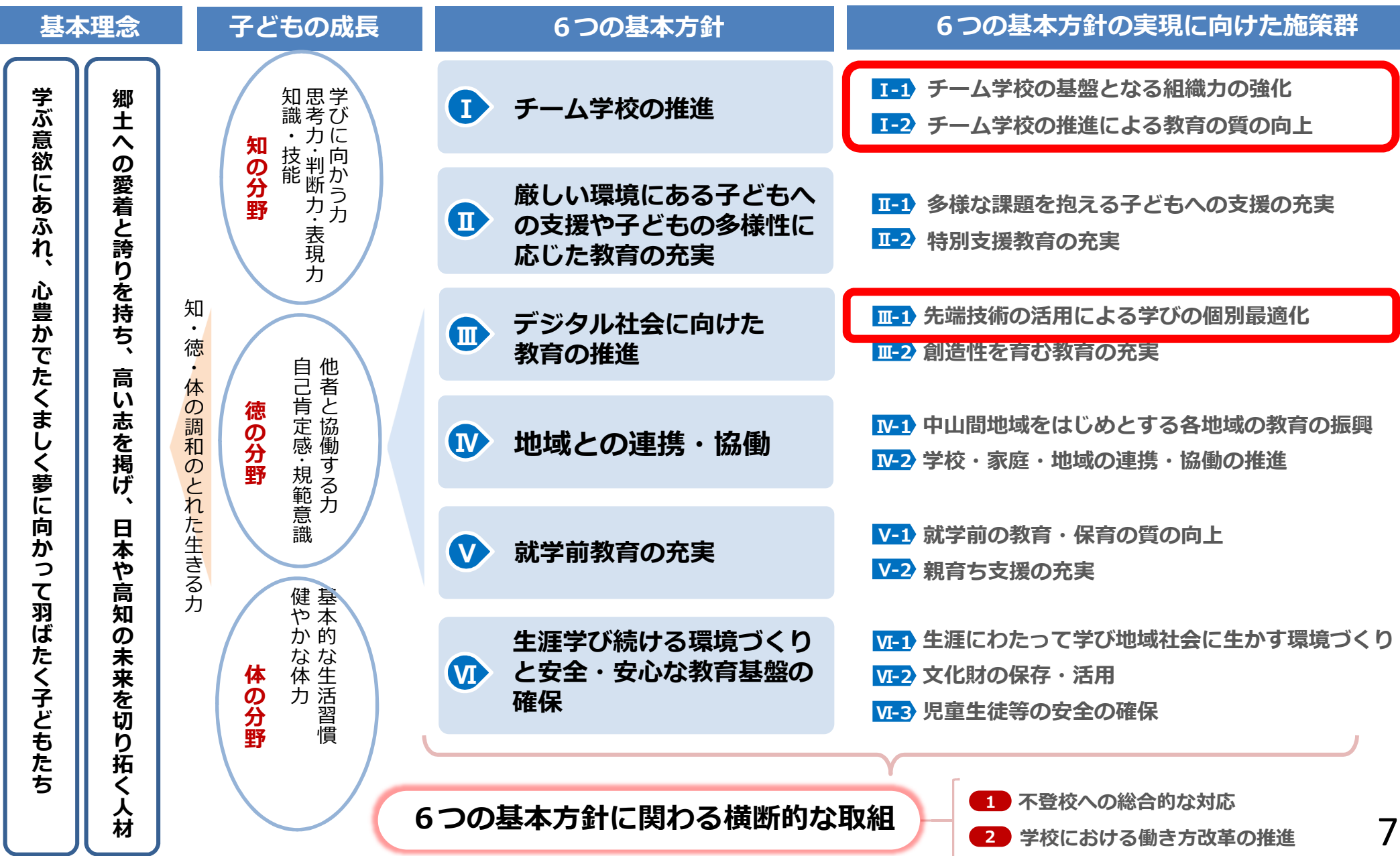
#### ② 高等学校

- 高校2年生の1月の学力定着把握検査におけるD3層の生徒の割合を10%以下とする
  - ▶ R元年度学力定着把握検査結果（3年生 4月）：24.2%
- 高等学校卒業者のうち進路未定で卒業する生徒の割合を3%以下とする
  - ▶ H30年度卒業生に占める進路未定者の割合：5.5%

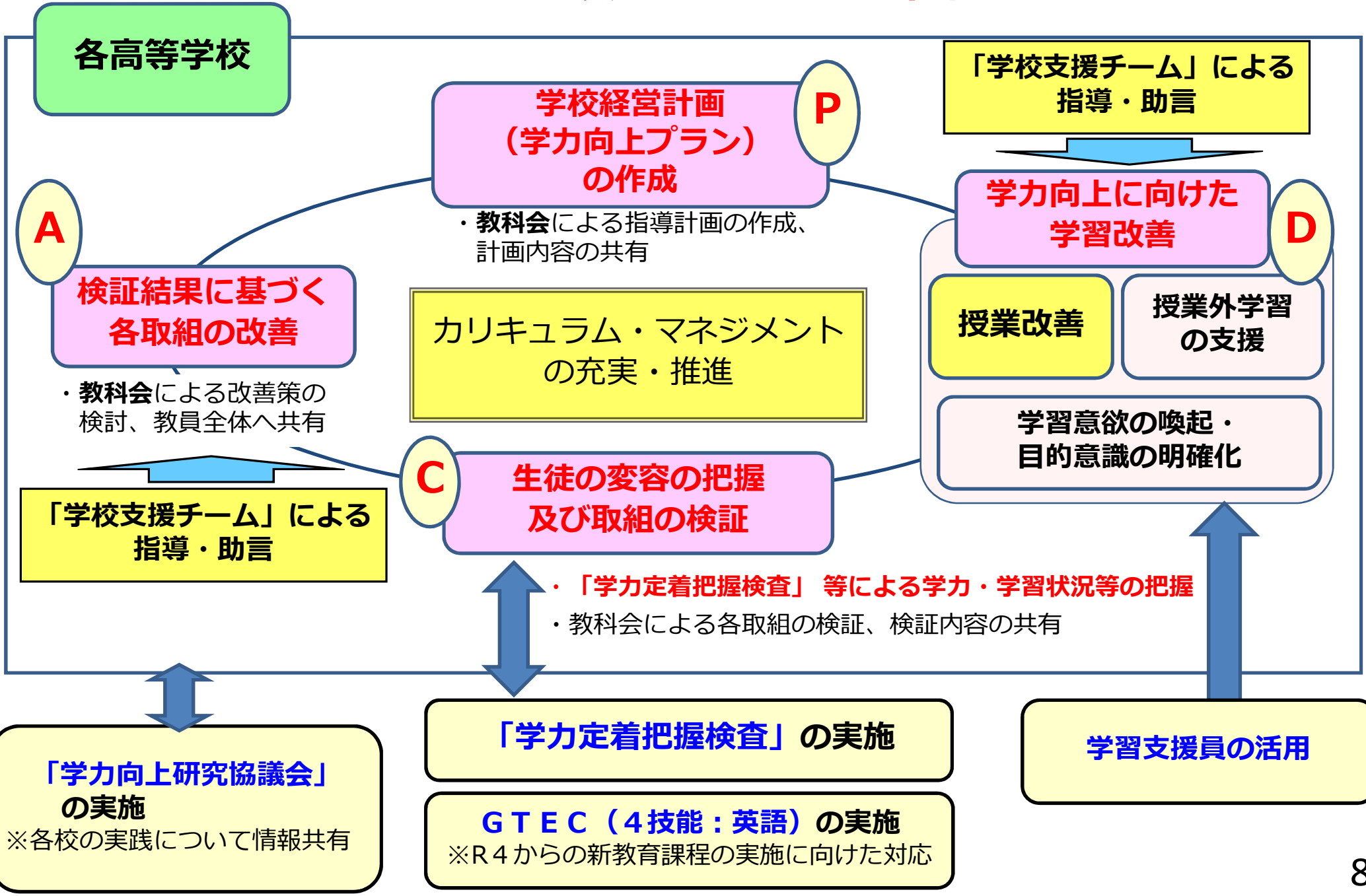
## 2 喫緊の課題解決に向けた教育改革

### 第2期教育等の振興に関する施策の大綱 第3期高知県教育振興基本計画

#### 基本理念（目指すべき人間像）の実現に向けた施策の体系図



## 学力向上に向けたPDCAの全体像





# 4 本県の高等学校改革におけるPDCAサイクルの推進

Plan

## 学校経営計画の策定 (4月・10月・3月提出)

令和元年度 学校経営計画・学校評価		□4月5日提出 □10月18日提出 □3月30日提出			全・定・通		
					高等学校		
高知県の教育の基本理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材	取組の方向性	①チーム学校の構築 ②厳しい環境にある子どもたちへの支援 ③地域との連携・協働		学校関係者評価		
目指すべき姿	学校像 生徒像	目指すべき姿を実現するための取組等	学校評価		[学力の向上] 評価 [ ]		
目指すべき姿 学校・生徒像		目指すべき姿を実現するための取組		[社会性の育成]			
				[チーム学校]			
【重点項目：生徒に対する取組項目】				(評価)A:目標を十分に達成 B:目標を概ね達成 C:やや不十分 D:不十分			
	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
学力の向上	□基礎的・基本的な知識及び技能 □思考力、判断力、表現力 □主体的に学習に取り組む態度(学習習慣を含む)	生徒に対する取組として 学力の向上、社会性の育成 取組と評価指標、具体的な取組内容			中間評価、改善した取組内容 年度末評価、次年度への見直しポイント		
社会性の育成	□コミュニケーション能力(かかわる力) □キャリアデザイン能力(やりぬく力)						
【チーム学校：教職員が取り組む項目】							
	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
授業改善	チーム学校として取り組む項目：授業改善、生徒理解・生徒支援、学校の振興、働き方改革						

### 学校経営計画の補助シートとして、別途①～⑤

- ① 基本計画目標等(第3期高知県教育振興基本計画に対する学校の目標等、生徒数、進路状況)
- ② 学力状況・進路希望等(学力定着把握検査結果(3教科総合)の各学年の経年変化、授業外学習状況等)
- ③ 社会性の育成(各学年のコミュニケーション能力・キャリアデザイン能力の向上、地域協働学習等)
- ④ 生徒理解・生徒支援(長期欠席者・いじめ認知件数等の項目へ予防的支援の取組内容、SC・SSWとの連携等)
- ⑤ 授業改善(教科会・研究授業等の協議内容) → 教科での学校支援チーム訪問後に記載

# 4 本県の高等学校改革におけるPDCAサイクルの推進

## 学力向上プラン(国、数、英)

学力定着把握検査の結果をもとに、教科ごとに各学年の経年変化を記載し、各学年の目標や手立て、その成果等を分析して記載 → 教科ごとのPDCAサイクルの強化

令和元年度 学力向上プラン【国語】										学校番号	高等学校	分校	担当者				
平成29年度入学生										提出期限 → ①6月6日(木)【グループウェア】 ②10月18日(金)以降(2・3年生のみ)【紙媒体】 ③1月15日(水)以降(1年生のみ)【紙媒体】 ④2月26日(水)【グループウェア】							
1年第1回		1年第2回		2年第1回		2年第2回		3年第1回		平成30年度3年生の取組の成果と課題	現状・課題分析<6月>	現状・課題分析<10月>	令和元年度3年生の取組の成果と課題				
人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	【成果】	【現状】	【現状】	【成果】				
A1	ADIV/0%									【課題】	【課題】	【課題】	【課題】				
A2	ADIV/0%																
A3	ADIV/0%																
B1	ADIV/0%																
B2	ADIV/0%																
B3	ADIV/0%																
C1	ADIV/0%																
C2	ADIV/0%																
C3	ADIV/0%																
D1	ADIV/0%																
D2	ADIV/0%																
D3	ADIV/0%																
計	0	ADIV/0%															
学力定着把握検査結果の学年ごとの経年変化を記載(結果と目標値も記載)										学年の目標とその手立て、現状・課題分析等を記載							
平成30年度入学生										平成30年度2年生の取組の成果と課題				現状・課題分析<6月>	現状・課題分析<10月>	令和元年度2年生の取組の成果と課題	
人数	割合									【成果】	【現状】	【現状】	【成果】				
A1	ADIV/0%									【課題】	【課題】	【課題】	【課題】				
A2	ADIV/0%																
A3	ADIV/0%																
B1	ADIV/0%																
B2	ADIV/0%																
B3	ADIV/0%																
C1	ADIV/0%																
C2	ADIV/0%																
C3	ADIV/0%																
D1	ADIV/0%																
D2	ADIV/0%																
D3	ADIV/0%																
計	0	ADIV/0%															
令和元年度入学生										令和元年度2年生の目標・具体的手立て							
										【目標】(※GTZの数値以外)	【要因】	【要因】	令和2年度2年生に向けた目標・具体的手立て				
										【目標達成のための具体的手立て】	【今後の取組】(授業)	【今後の取組】(授業)	【目標】(※GTZの数値以外)				
										(授業外)	(授業)	(授業)	【目標達成のための具体的手立て】				
										(授業外)	(授業外)	(授業外)					

### Check

### 生徒の変容の把握及び取組の検証(学力定着把握検査)

#### 学力定着把握検査の概要

##### <導入経緯>

H19年度から実施された全国学力・学習状況調査により、小・中学校の児童生徒の学力の定着度の全国比較が可能となった結果、**中学校段階での学力の課題が明らかとなった。**

**高等学校で生徒の学力を全国的な調査で把握**することは、中学校段階での学力に課題のある本県の高校教育において必要であり、**義務教育段階を含めた学力の定着状況の結果・分析が学校組織として授業改善の取組や個々の生徒への学習支援に活用できる**ことから、学力定着把握検査を導入。

##### <学力定着把握検査>

- ・ 学校の多様性に対応するため、現在は**3種類の検査**を利用
- ・ **英語、数学、国語の3教科を対象に、基本、マーク形式で実施**  
(1年生：第2回、2年生：第1・2回のみ、記述式を含む)
- ・ 高知県オリジナルアンケート【学校生活、授業理解、自己肯定感、社会性などの項目】も実施
- ・ R元年度からは、学年進行で第2回を「**学びの基礎診断**」とし、「**英語SP**」又は**GTEC**を実施

H21~23

**指定校2年生を対象に学力定着把握検査を実施(年2回)**【フロンティアハイスクール事業】

- ・ 各校で、課題設定・課題解決の方策、方策の効果の検証について整理・実践

H24・25

全ての県立高校の全日制(昼間部を含む)**1・2学年を対象に学力定着把握検査を実施(年2回)(学年進行)**【学力向上対策の研究事業】

H26~29

全ての県立高校の全日制(昼間部を含む)**全学年を対象に学力定着把握検査を実施(1・2学年：年2回、3学年：年1回)**【学力向上サポート事業】

- ・ 指導主事等による学力向上にかかる学校訪問を年2回の実施

H30~R元

全ての県立高校の全日制(昼間部を含む)**全学年を対象に学力定着把握検査を実施(1・2学年：年2回、3学年：年1回)**【学力向上推進事業】

- ・ 学校支援チーム(英・数・国を中心)を編成し、年間を通して授業改善にかかる学校訪問を行い指導・助言

### 「高校生のための学びの基礎診断」の活用

「高校生に求められる基礎学力の確実な習得」と「学習意欲の喚起」を図るため、文部科学省が一定の要件を示し、民間の試験等を認定する制度を創設し、多様な民間の試験等（測定ツール）の開発・提供、その利活用を促進。それにより、**高校生の基礎学力の定着に向けたPDCAサイクルの取組を促進。**

多様な測定ツールを活用しながら生徒の学習状況を多面的に評価し、指導の工夫・充実を図っていく。

本県が実施してきた学力定着把握検査と理念や目的は共通

→ **1・2学年で「高校生のための学びの基礎診断」の実施**



# 「高校生のための学びの基礎診断」制度

- 平成28年3月の高大接続システム改革会議「最終報告」を踏まえ、有識者による検討・準備グループ等において具体的な検討を推進。同グループによる「論点整理」（平成29年3月）や試行調査（平成29年1～3月）の結果を踏まえ、平成29年7月に「高校生のための学びの基礎診断」実施方針を策定。
  - 「高校生に求められる基礎学力の確実な習得」と「学習意欲の喚起」を図るため、**文部科学省が一定の要件を示し、民間の試験等を認定する制度を創設し、多様な民間の試験等（測定ツール）の開発・提供、その利活用を促進。**それにより、**高校生の基礎学力の定着に向けたPDCAサイクルの取組を促進。**
  - 「高校生のための学びの基礎診断」検討ワーキング・グループにおける専門的な検討を加え、高校・教育委員会等の関係者、民間事業者等の意見やパブリック・コメントによって得られた意見等を考慮しつつ、**平成30年3月に「『高校生のための学びの基礎診断』の認定基準・手続等に関する規程」を策定。**
  - 平成30年12月に初めて測定ツールの認定を行い、平成31年度から本格的に利活用開始。**
- ※学校や教育委員会等において選択・利活用について検討し、次年度の年間指導計画等に反映。

国

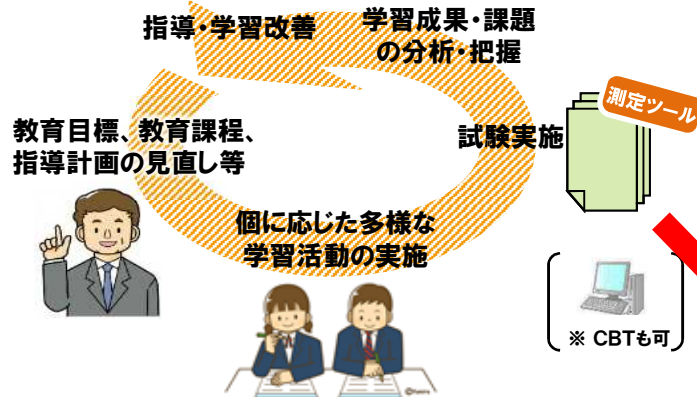
## 高等学校における基礎学力の定着に向けたPDCAサイクルの構築

取組を促進

測定ツールの  
充実

### 高校

社会で自立するために必要な基礎学力について、各学校がそれぞれの実情を踏まえて目標を設定し、教育課程を編成。  
多様な測定ツールを活用しながら生徒の学習状況を多面的に評価し、指導の工夫・充実を図っていく。



各学校の実情等を踏まえ、適切な測定ツールを、必要に応じて組み合わせながら選択・活用

### 教育委員会等

教育委員会等による  
学校への支援

- 高校の魅力づくりとともに、質の確保のための体制強化や再編整備
- 学校支援のための人材配置や予算措置、教員研修等の取組

## 「高校生のための学びの基礎診断」制度の創設

（一定の要件に即して民間の試験等を認定する制度を創設）

認定基準等の設定

審査・事後チェック体制の整備

仕組みの構築と運用を通じて、民間事業者等から高等学校の実態に応じて選択可能な多様な測定ツールが開発・提供され、その利活用が促進されることが期待。

認定基準

（出題）

- ・学習指導要領を踏まえた出題の基本方針に基づく問題設計
- ・対象教科は国・数・英（共通必修科目中心、義務教育段階含む）
- ・主として知識・技能を問う問題に加え、主として思考力・判断力・表現力等を問う問題の出題
- ・記述式問題の出題
- ・英語4技能測定

（結果提供）

- ・学習成果や課題が確認でき、事後の学習改善や教師による指導の工夫・充実に資する結果提供等

（認定の有効期限）

- ・認定の有効期限は認定をしたときから3年後の年度末まで





# 「高校生のための学びの基礎診断」認定ツール一覧 (平成30年度申請分)

認定期間：2022年3月31日まで

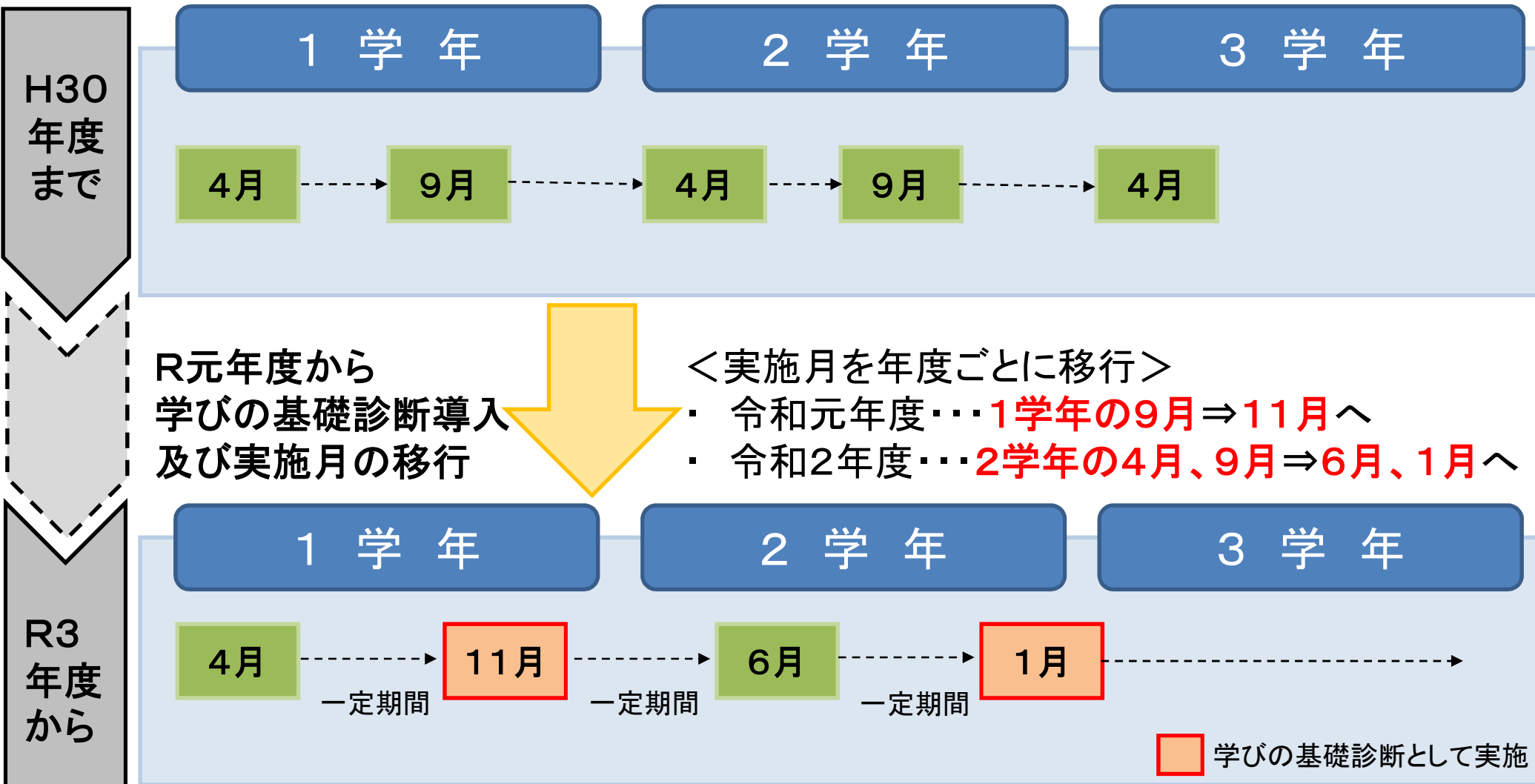
対象教科	団体名	測定ツールの名称	基本 (※1)	標準 (※2)
国語	日本漢字能力検定協会	文章読解・作成能力検定 4級	●	
		文章読解・作成能力検定 3級		●
		文章読解・作成能力検定 準2級		●
	ベネッセコーポレーション	Literas 論理言語力検定 3級	●	
		Literas 論理言語力検定 2級		●
数学	日本数学検定協会	実用数学技能検定 3級	●	
		実用数学技能検定 準2級		●
		数検スコア基礎診断 数I・数A (項目別診断)		●
		数検スコア総合診断 数I・数A		●
	ベネッセコーポレーション	ベネッセ数学理解力検定		●
英語	教育測定研究所	英検IBA TEST C 4技能版	●	
	ケンブリッジ大学英語検定機構	ケンブリッジ英語検定 A2 Key for Schools(PB/ CB)		●
		ケンブリッジ英語検定4技能CBT (Linguaskill)		●
	Z会ソリューションズ	英語CAN-DOテスト レベル2	●	
		英語CAN-DOテスト レベル3		●
	ブリティッシュ・カウンシル	Aptis for Teens (中高生向けAptis)		●
ベネッセコーポレーション	GTEC Advancedタイプ・Basicタイプ ・Coreタイプ	● Core	● Basic Advanced	

対象教科	団体名	測定ツールの名称	基本 (※1)	標準 (※2)
3教科	学研アソシエ	基礎力測定診断 ベーシックコース	●	
	ベネッセコーポレーション	進路マップ 基礎力診断テスト	●	
		進路マップ 実力診断テスト		●
		スタディーサポート αタイプ、βタイプ、θタイプ		●
		スタディープログラム		●
		ベネッセ 総合学力テスト		●
	リクルートマーケティングパートナーズ	スタディーサプリ 学びの活用力診断～ベーシック～	●	
		スタディーサプリ 高1・高2 学びの活用力診断～スタンダード～		●

- ※1：義務教育段階の学習内容の定着度合いを測定することを重視したタイプ  
 ※2：高等学校段階の共通必修科目の学習内容の定着度合いを測定することを重視したタイプ

## 4 本県の高等学校改革におけるPDCAサイクルの推進

「高校生のための学びの基礎診断」に対応した  
学力定着把握検査について(基礎力診断テスト)



- 検査実施月を移行させ、検査実施から次の検査までの間を、一定の期間(7ヶ月)設けることで、**PDCAサイクル**をしっかりと回し、取組が徹底できるようにする。

## 4 本県の高等学校改革におけるPDCAサイクルの推進

Do

Action

学力向上に向けた学習の改善

検証結果に基づく各取組の改善

学校支援チームによる各学校のサポート

構成：企画監（チーム長）1名、課長補佐1名、チーフ・指導主事8名  
学校経営アドバイザー1名、授業改善アドバイザー6名

### 授業改善に向けた取組

- ・ 基礎力診断テスト実施校29校を「重点支援校」、「支援校」、「小規模校」に分類
- ・ 国語、数学、英語の指導主事等と授業改善アドバイザーが、各教科、年間5～8回学校訪問を行い、授業参観・協議を実施し指導・助言を行う
- ・ 地歴公民、理科の指導主事を増員し強化（年間3回の学校訪問）

### 学校運営の質の向上に向けた取組

- ・ 学校経営アドバイザーと企画監が、全36校の管理職を対象に、各校の学校経営計画に基づく取組に対し、指導・助言を行う（学校訪問を年間3回程度実施）

# 4 学力向上に向けたP D C Aサイクルの推進

## 「学校支援チーム」による指導及び年間の流れ

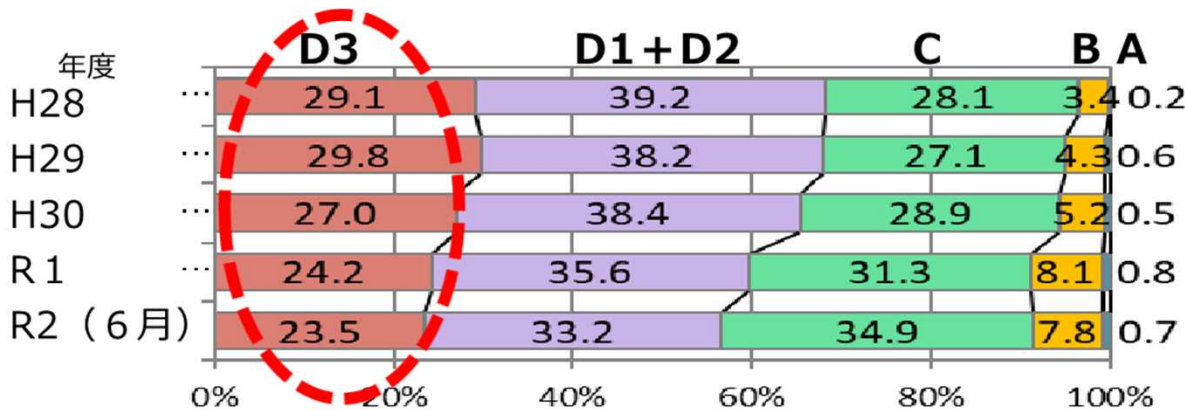
授業改善 (29校)			学力向上 (35校)	カリキュラム・マネジメント (36校)
国語・数学・英語		地歴公民・理科 (29校)		
重点支援校 (4校)	支援校 (11校)	小規模校 (14校)	年間 3回訪問	年間 3回訪問
各教科 年間 8回訪問	年間 5回訪問 1教科のみ 年間 8回訪問	各教科 年間 5回訪問		

令和2年度の計画												
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校	1・3年生 学力把握検査		2年生 学力把握検査 学力向上 プラン提出	結果分析・学力向上 プランの作成・実践			2年生 学力向上 プラン提出	1年生 学力把握検査 「学びの基礎 診断」	2年生 学力把握検査 「学びの基礎 診断」 1年生 学力向上プラン提出	結果分析・学力向上 プランの作成・実践	学力向上 協議会	学力向上 プラン提出
学校支援チーム	カリキュラム・マネジメント	企画監・学校経営アドバイザーによる学校経営(教育課程等を含む)に関する指導・助言										
授業改善	取組内容共有	授業改善支援 授業参観+協議 (教科会)	学力向上 プラン 協議	まとめ 分析	授業改善支援 授業参観+協議 (教科会)				学力向上 プラン 協議	まとめ 分析		

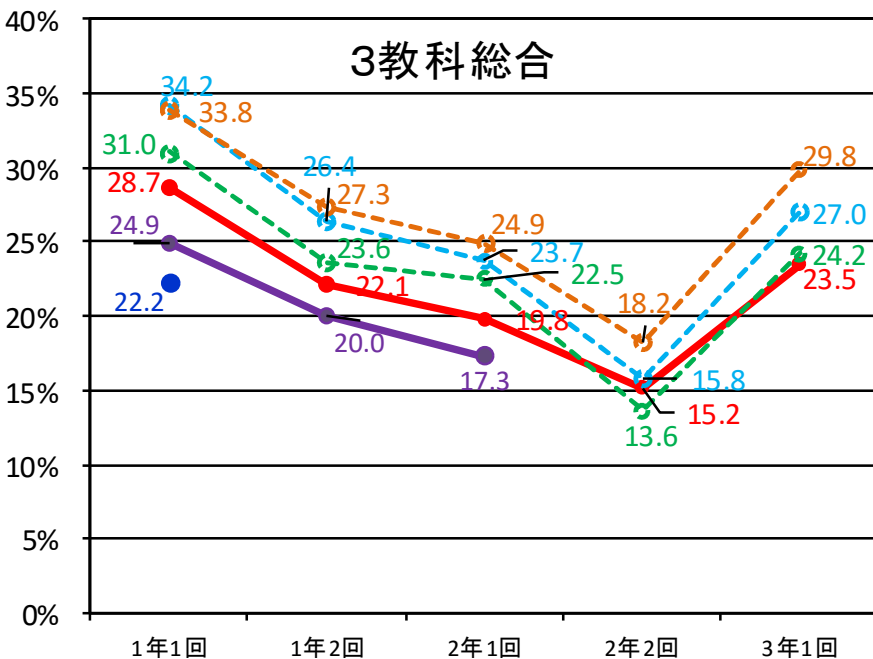
## PDCAサイクルの推進による成果

**知** 学力定着把握検査（進学拠点校を除く県立高校29校でベネッセ基礎力診断テストを実施）

■ 高校3年生の4月の学力定着把握検査におけるD3層の生徒の割合を15%以下とする（前大綱の基本目標）



【D3層】  
就職に筆記試験が課される企業では不合格になることが多いレベルの学力層



● D3層の生徒の割合は、3年生で23.5%まで減少している。また、C層以上の割合は年々増加傾向にある。

■ 基礎力診断テストにおけるD3層の占める割合の推移

- R2年度1年生
- R2年度2年生
- R2年度3年生
- R1年度3年生
- H30年度3年生
- H29年度3年生



### PDCAサイクルの推進による成果

- 授業参観・研究協議を行うことで、教員の授業改善への意識の変化が感じられるようになってきた。さらに、その改善意識が授業実践につながり、授業に変化が見られるようになってきた。
- 学びの基礎診断の結果を基に、各教科で「学力向上プラン」を作成することで、結果分析を教科会等で行い、目標を設定し取組を検証・改善するなど、PDCAを推進していくという意識が浸透してきた。
- 学校の組織的な取組としては、授業改善にかかる校内研修の実施や、公開授業週間・月間の設定、自己評価シートの活用など、各校に応じた取組を根拠データを基に検討し、組織的に取り組もうとする学校が見られるようになった。